

国際開発工学の イメージ

国際開発工学科4年

花岡研究室所属

齋藤 亘

OUTLINE

1 学んできたこと

2 学びから考える‘国際開発工学‘のイメージ

1. 学んできたこと

現在 学科4年生

→ 学ぶためのmaterial: 学部2・3年の講義
+ 研究室での時間(4年生になってからが主)

① 工学の基礎

ex) 工学数学ABC、物理化学、熱力学 etc... → 将来 機械のことしか
わからないのは困る

② プロジェクトマネジメント(実務の部分)

ex) 国際開発論 国際プロジェクト演習 etc... → 将来 国際分野で働く
時に重要なコミュニケーション
能力をつける

+

③ 先輩方の研究 (交通計画)

2. 国際開発工学という学問のイメージ

国際開発工学

研究

→ 学問自体の発展

社会貢献

GIVE

重心

教育

→ 人(この場合学生)を育てる

ex) global 人材

TAKE

2. 国際開発工学という学問のイメージ

理由

1 学部2・3年の教養しかまだ手に入れていない

(本格的な論文をまだ書いていない)

→ 教育の面を強く感じるのは当たり前か？

2 研究という側面からみた国際開発工学の特有の専門性はなにか？それは必要か？

→ 本専攻を例にとると、多種類の研究室により構成されているため見えづらい

→ 研究への昇華(高田先生)

→→先生方は 研究と教育のバランスについてどのように考えていらっしゃいますか？？